

編集後記

平成 22 年 7 月に交流協会に異動になりこの 6 月で 3 年の任期が終了する。着任当初、台湾語での電話のやりとりに圧倒されながら、初めて耳にする外務書用語や難解な在外職員給与規程をひもとき、早朝から深夜まで予算要求書作成作業に明け暮れたことが、つい昨日のことのよう思い出される。

この 3 年間の思い出はなんといっても、東日本大震災時における台湾の多大なる支援であろう。200 億円の義援金には日本人だけでなく世界中の人々が驚いた。そして、速やかな救援隊の派遣、保管しきれないほど次々と送られる救援物資や励ましのメッセージ等、台湾の人たちは親日家であるとは聞いていたがまさかこれほどと改めて感嘆したことが思い出される。なぜ台湾人は親日家なのか？双方の世論調査でも明らかにされているが、それは、お互いに信頼に値すると考えているからであるとのこと。台湾の人たちは、70 余年たった今でも日本統治時代の 1930 年代に台湾南部にダム建設を行った八田與一という日本人技師に感謝して毎年慰霊祭を実施しているという。これは、日本と台湾が深い絆で結ばれているゆえんではなかろうか。この話は台湾では有名で、教科書に掲載されているとのことであるが、知っている日本人はすくないと思うので日台の信頼の証左として、機会あるごとに広めていきたいと思う。

また、交流協会在職中に数度訪台したが、夜の五木大学の聴講（？）以外は、台湾の名所・旧跡等の見聞を広めることができなかつたので、ディバックでも背負い、阿里山、太魯閣溪谷、九份等観光地をゆっくり巡りたいと考えているところである。

一昨年 11 月にオープンスカイ協定が結ばれ双方の往来が大幅に増加し、この 4 月の宝塚歌劇団台北公演も大成功を遂げ、また、日本で故宮展の開催も近々とのこと。日台の親交はますます弾みがつき、交流協会の役割は増し皆様の更なる活躍が期待されると思うので頑張ってください。

最後に、交流協会のますますの発展を心よりお祈り申し上げ、謝辞・多謝！台湾&交流協会。

(経理部次長 高橋 準市)